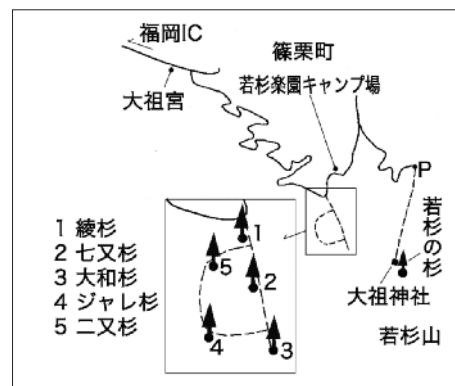


## f-7 若杉山の天然杉 福岡県糟屋郡篠栗町若杉

九州の天然杉は、福岡の近く、若杉山の中腹に点在する。若杉山には大祖神社があり、境内に「若杉の杉」という幹周 10.1m の一本杉の老樹があり、周辺には美しい一本杉が林立している。「若杉の杉」は天然杉からの優良選抜で、親杉としての役割があったと考えられる。さすれば、その元となった天然杉が大切に守られていたと想像できる。



わかすぎ すぎ  
若杉の杉



やまとすぎ  
大和杉 評価 B

巨木 DB では幹周 16.15m。実際は根元 5 分岐の分岐杉。幹周の値は根元周りと思われる。M 式測定は柵に囲まれてできなかつたが、株周 16.15m ということになる。調査では 5 本の幹は同一個体ということであるから、実生伏条分岐幹が巨大化した樹形と考えられる。  
樹高 45m



あやすぎ  
**綾杉** 評価 C 幹周 6.0m

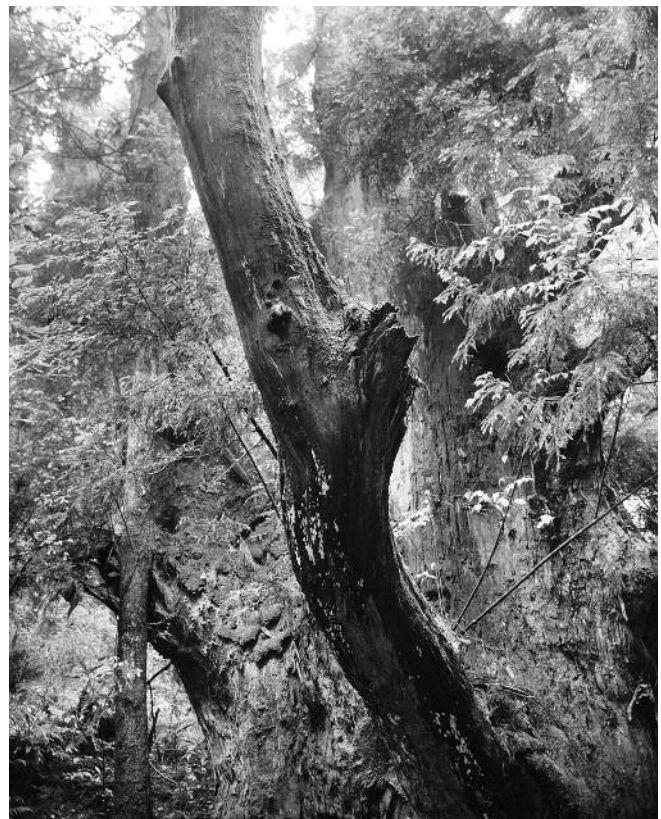
地元の由来によれば、神功皇后が朝鮮征伐に赴く際、山頂の大祖神社の杉のご神木の枝を手折り、鎧の袖にお守りとして携えた。凱旋帰国後、この杉の枝を香椎の宮の傍らに植えたのが現在の綾杉だという。その後、神明加護のお礼に大きくなった綾杉から枝を分けて山に植えた。その事からこの山を「分杉山」といい、それが訛って「若杉山」と言うようになったという。

伝承から、綾杉は若杉山の一本杉の親杉としての役割を果たしていたと考えられる。



**ジャレ杉** 評価 C 幹周 11.3m

名前の由来は不明で、半壊状態。



ななまたすぎ  
**七又杉** 評価 C

幹周 9.8m 樹高 20m

根元で7分岐するが、樹勢は弱っている。これも実生伏条分岐幹である。



ふたまたすぎ  
**二又杉** 評価 C

幹周 6.9m 樹高 35m

背後にもう一本分岐幹があり、三又である。